

煙は高いところが好き

マルコ10:35～45 / 李正雨師

子供たちを育てながら、たまには子供たちの未来を想像していることがあります。すべての親が同じだと思いますが、私もうちの子供たちが偉い人になったらと思います。そしてできることなら、力ある人、社会から認められる職業についている人になってほしいと思います。このような願いが叶うかどうかは、分かりません。しかし、確かなことは、このような欲は、先週の主日の福音書と今日の福音書の教えとは相反しているものなのです。先週の福音書の始めは、「イエスが旅に出ようとされると」という言葉から始まります。この旅の終着地はエルサレムであり、イエスさまは、そこで十字架につけられます。つまり、先週の福音書からの言葉は、イエスさまの公的な生涯の最後の部分を示しているということです。そして今日の福音書も先週の福音書と同じく、イエスさまの公的な生涯の最後の部分の言葉です。先週の福音書の主な言葉は、イエスさまと金持ちの男との会話でした。イエスさまはお金持ちとの会話を通して、弟子たちに、「永遠の命とお金」について教えられました。そして、今日の福音書でのイエスさまは「力、権力」について弟子たちに教えられます。

今日の福音書は、ヤコブとヨハネの要求から始まります。ヤコブとヨハネはイエスさまにこう言います。35節の言葉です。「ゼバダイの子ヤコブとヨハネが進み出て、イエスに言った。『先生、お願いするのをおこなえていただきたいのですが。』」私は、なぜヤコブとヨハネが、このような要求をしたかを考えてみました。そして先週の福音書の最後の節が、ヤコブとヨハネの心を揺さぶらせたのではないかと思います。先週の福音書の最後の節は、マルコによる福音書10章31節の言葉です。「しかし、先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる。」この言葉は、神さまの全能と永遠の命についての言葉として、誰でもイエスさまに従う者には、永遠の命が与えられるという言葉だと思います。しかし、当時のヤコブとヨハネはこのように思わなかったようです。なぜなら、彼らは実際に先にいる人々だったからです。

ヤコブとヨハネは、ペトロとアンデレと共にイエスさまの公的な生涯の初期に召された人々でした。そして、彼らはイエスさまの愛弟子たちでした。イエスさまはどこに行かれても、この3人を連れて行かれました。今年の福音書であるマルコによる福音書の中で、何箇所かを探してみましょう。まず、マルコによる福音書5章37節の言葉です。この言葉は、会堂長ヤイロの娘を癒すために行かれていたところの言葉です。「そして、ペトロ、ヤコブ、またヤコブの兄弟ヨハネのほかは、だれもついて来ることをお許しにならなかった。」次は、マルコによる福音書9章2節です。この言葉は、イエスさまの姿が栄光のうちに変わっていたところです。「六日の後、イエスは、ただペトロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。イエスの姿が彼らの目の前で変わり、」最後には、マルコによる福音書14章32～34節です。この言葉は、ゲッセマネでご自分の最期のために祈られていたところです。「一同がゲッセマネという所に来ると、イエスは弟子たちに、『わたしが祈っている間、ここに座っていなさい』と言われた。そして、ペトロ、ヤコブ、ヨハネを伴われたが、イエスはひどく恐れてもだえ始め、彼らに言われた。『わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、目を覚ましていなさい。』」誰が見てもこの3人は、先にいる人だったし、彼ら自らも、自分たちが先の人であることをよく分かっていたと思います。ところが、イエスさまは先週の福音書31節で、「先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる」と言われました。明らかにこの言葉は、この3人の弟子たちの心を動揺させたことであり、そのうちのヤコブとヨハネはイエスさまのところに来て、自分の地位について要求します。37節の言葉です。「二人は言った。『栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください。』」

一方では、このような要求もある程度妥当性があると思われれます。彼らはイエスさまを頼っただけでなく、イエスさまに従うためにすべてのものを捨てました。先週の福音書で、ペトロはイエスさまに「このとおり、わたしたちは何もかも捨ててあなたに従って参りました」と言いました。自分の人生をかけた所で対価を要

求して受けるのは、当然のことだと思います。しかし、その対価についての理解が正しくない場合は、要求も正しくないのです。イエスさまは、ヤコブとヨハネの要求についてこう言われます。「イエスは言われた。『あなたがたは、自分が何を願っているか、分かっていない。このわたしが飲む杯を飲み、このわたしが受ける洗礼を受けることができるか。』」

ヤコブとヨハネが望ましいものは、イエスさまの両側、すなわち権力でした。皇帝や王の両側にいる権力者のように、イエスさまによって、新しい時代が開かれると、イエスさまに次ぐ権力者になり、その時代を治めることを望んだというのです。しかし、これは、イエスさまの教えとはふさわしくないことでした。イエスさまがエルサレムに向かって行かれるのは、政権を奪うためではありませんでした。ご自分の死によって、みんなが望んでいる権力が正しくないということを知らせるために、また復活によって、世の中の権力が虚しいものであることを知らせるためでした。そして、最終的には、神さまの赦しと救いをこの世に示されること、これがイエスがエルサレムに行かれる目的でした。しかし、弟子たちは、その言葉には耳を傾けませんでした。このことを今日の福音書の前の節で言われましたが、弟子たちは、これを政権を奪う過程での難しさや大変さくらいに思ったようです。だからイエスさまは、「あなたがたは、自分が何を願っているか、分かっていない」と言われたのです。そして、ご自分の杯と洗礼を受けることができるかと言われたのです。

ヤコブとヨハネは、このイエスさまのお問いに「できます」と答えます。権力を手に握ることができれば、難しさや大変さくらいは耐えることができるという言葉だと思います。このような答えに、イエスさまは確かにそうなると言われます。この言葉は、ヤコブとヨハネが権力を握ることになるという意味ではありません。自分の弟子である彼らが未来にどんな選択をするかを知っておられるということです。イエスさまの復活を経験する前の弟子たちは、当時のユダヤ人たちと変わりませんでした。彼らもお金と権力に従い、それが神さまの祝福だと思いました。しかし、復活を経験した弟子たちは、変わりました。彼らはイエスさまの道を選んで従いました。自分の地位を求めたヤコブは、初代教会で最初にイエスさまの杯と洗礼、すなわち、殉教を受けました。そして、どの弟子たちも、イエスさまに力を求めませんでした。イエスさまが権力のために、この世に来られたのではないということが分かったからです。

しかし、復活を経験していない弟子たちは、このことでヤコブとヨハネに腹を立てました。弟子たち皆がイエスさまの両側、つまり力を持ちたかったからです。だから、イエスさまは弟子たちを呼び寄せて言われます。今日の福音書42～44節の言葉です。「あなたがたも知っているように、異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている。しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。」この言葉は、単純に「あなたたちは仲良くして過ごしなさい」という言葉ではありません。これは、神さまの国は、この世と異なるということを教えてくださる言葉です。

イエスさまの時代も、今の私たちの時代も、この世では、支配者と見なされている人々が民を支配し、権力を振るっています。それで多くの人々は、このような力を手に入れたがります。または、私のように自分の子供たちがこのような力を持って欲しいと思っている人もいます。しかし、神さまの国を受け継ぐ人々は、このような時流と教えに従ってはなりません。支配して権力を振るっている人の力は、自分だけのために使われているからです。何がイエスさまと洗礼者ヨハネを殺したかを思い出してください。自分の力と権力を維持するために、真実を隠すために、権力者たちは、自分に与えられた力を利用して、罪を犯しました。

先週の福音書と今週の福音書で出て来た「お金と権力」は、私たちの生活の中では大事に思われているものですが、永遠の命を受け継ぐためには、役に立たないものです。これが私たちの目的になったら、私たちも、最終的には神さまの教えに従わないものになるでしょう。ことわざの中で、「馬鹿と煙は高いところが好き」というものがあります。煙はいつも高いところに上がります。そして、音もなく消えてしまいます。権力もこれと同じだと思います。音もなく消える権力ではなく、いつまでもある神さまの言葉に従う皆さんになりますように。神さまが私たちを「お金と権力」の誘惑から、正しい道に導かれますように、主の御名

によって祈ります。アーメン